

新診療棟移転に向けた体制整備への取り組み ～手術部の看護師定着と業務改善を目指して～

広島大学病院 大内 純子

【実践の概要】

現在、当院は新外来・診療棟を建設しており平成 25 年 9 月の開院を予定している。移転後、手術部は現在の 11 室から 14 室稼働へと拡大するため、人材育成期間を考慮しながら人材確保策を検討してきた。しかし、ここ数年、手術部の看護師の離職率が一般病棟に比較し高くなっているため、看護の質の確保が困難な状況をきたしている。そこで、新診療棟への円滑な移転と手術看護の質の保持を目的として、手術部の看護師定着と業務改善に取り組んだ。看護師定着については、看護部主導で手術部への配置交代を勧め、教育体制の整備や指導方法の改善等を行った。また、業務改善については、滅菌業務の中央一元化のために、手術器械や医療器材の洗浄・組立に関する研修を開始し、SPD センター運営委員会において必要人数の採用を要請した。そして、手術部内の清掃については清掃担当部署へ依頼した。

【背景】

現在、当院は新外来・中央診療棟を建設しており平成 25 年 9 月の開院を予定している。移転後、手術部は、現在の 11 室から 14 室稼働へと拡大する。看護部ではかねてより、看護体制を整備するために人材育成期間を考慮しながら人員確保策を検討してきた。しかし、ここ数年手術部の看護師の離職率が 10%以上と一般病棟に比較し高くなっている。そのため、看護の質の確保が困難な状況をきたしている。

また、手術部の看護業務には、直接看護の他にも器械の洗浄・組み立てや清掃業務があり、看護師と看護補助者が協力しながら行っている。夜間は看護師のみで実施しているため、移転を機に器械に関する業務は滅菌器材管理室へ移行し、清掃業務は清掃担当部署と分担するよう業務改善を計画している。

業務担当副看護部長として、手術部と滅菌器材管理室（SPD センター）や清掃担当部署等との業務改善の調整を行い統括することが、私の職務と考える。

【実践計画】

目標 1：手術部看護師の離職率を 10%以下とする。

1. 平成 24 年 4 月の新規採用者に対する指導は、新規採用者を含むチームを編成しチームメンバー全員で新人指導を実施する。
2. 看護部方針として中堅看護師の異動を推進し、手術部への配置交代を勧める。
3. 10 月の院内配置交代者に対する教育体制は、パートナーシップ・ナーシング・システムをもとにパートナーを決定し共に行動し指導する体制とする。
4. 日々の指導や定期評価は、成長している点を伝えポジティブに評価し承認する。さらに、手術部移転に関する係を分担し企画を任せるなど役割と権限委譲によりモチベーションの向上を図る。
5. 手術介助に関する学習方法、またはリアリティショックへの対処方法等、手術部看護師同士で意見交換する場を設ける。

目標 2：滅菌業務を中央一元化し、清掃業務を担当部署と分担する。

1. 手術器械や医療器材の洗浄・組立に関して、滅菌器材管理室職員が手術部での研修を開始する。
2. 手術器械や医療器材の洗浄・組立に関するマニュアルを作成する。

3. 手術部と滅菌器材管理室の必要職員数を算出し SPD センター運営委員会等で採用を要請する。
4. 新診療棟移転後の手術部内の清掃を清掃担当部署へ依頼する。

【結果】

1. 手術部看護師の離職率を 10%以下とする。

手術部の新規採用者 14 名に対しては、チームメンバー全員での指導を実施したが、6 月までに 14 名の内 3 名が中途退職していた。そのため、当院の本来の教育体制に基づくように指導し、新規採用者に対して実施指導者を配置した。また、10 月の配置交代時には、看護部主導で手術部への配置交代を推進し、4 名の中堅看護師を手術部へ配属した。院内配置交代者に対する教育体制や日々の指導は、計画通り実施した。

2. 滅菌業務を中央一元化し、清掃業務を担当部署と分担する。

滅菌器材管理室では、手術器械の洗浄・組立に関する研修を平成 23 年度より開始し、滅菌器材管理室職員 13 名中 6 名が手術部での研修を終了した。研修中は手術器械や医療器材の洗浄・組立に関する写真を取り、それぞれのマニュアルを作成した。また、必要職員数を算出し SPD センター運営委員会等で採用を要請した結果、3 名の増員と採用が決定した。清掃については、日々の清掃と手術終了後にはその都度清掃が必要であることを説明し、手術部内全ての清掃を清掃担当部署へ依頼した。現在、清掃担当部署で検討中である。

【評価及び今後の課題】

目標 1 については、平成 24 年度の手術部看護師の離職率が 12.7%であり目標達成には至らなかった。手術部の 1～2 年目看護師に対するアンケートでは、次年度の教育体制としてプリセプターシップ等による精神的支援を 6 名が希望し、2 名はプリセプターだけに任せるのではなくスタッフ全員が指導に関わることを希望していた。次年度も多くの新採用看護師が手術部配置となるため、アンケートの結果を反映させ、教育・指導体制を充実し、離職を防止することが必要である。

目標 2 については、現段階では評価できないため継続した取り組みと確認が必要である。今後は交渉を継続するとともに、業務改善ができなかった場合の手術部・滅菌器材管理室業務についても検討する必要があると考える。

参考文献

- 1) 川島愛, 他: 看護の効率化を目指した物品管理, 実践安全手術看護, 6(3), P2～9, 2012.